社説

放免囚と宗教家

放免囚の始末の困難なるは前日も記したる通りにして到底官邊の手を以て救ふ可きに非ず昨今彼の恩赦金四十萬圓の内を以て之を救護す可しとの説もあるよしなれども減刑の一事既に無上の恩惠なるに此上賜金を給するが如きは分に過ぎたる沙汰にして獨り囚人に厚きの嫌を免れず特に官の手を以てすれば人々の事情に應じて取扱を異にするみと能はざるを以て其効能も案外少なかる可し左れば之を如何にす可きやと云ふに此上は世の慈善家特に宗教家に依頼せんと欲するものなり蓋し宗教の盛衰は宗教其物の性質よりも寧ろ僧侶教師の社會に與ふる功徳如何に因るものにして單に説教のみを以て衆生を濟度す可きに非ず古の名僧智識が法を説くと共に社會公共の事に盡力し或は道路を開き橋梁を架し又は殖産の事までも心配したるは之が爲めにして耶蘇教の人々も此に見る所あるか慈善の事は自から度外視せざるが如し或は病院を開て醫藥を施し或は學校を設けて貧子弟を教へ或は孤兒を拾ひ擧げて養育し又は古衣の類を慈善家より貰ひ集めて窮民に給するなど人を感ぜしむるの事少なからず現に今回放免の囚人に就ても内[illegible]名を引受けて再び罪を犯さゞる様世話するものありと云ふ然るに佛教徒を見れば常に安閑として此類の事に心を用ゆるもの殆んど皆無なるが如し朝夕佛像の前に自分にも解らぬ經を讀み葬式に臨みてお布施を貰ふが平生の役目にして偶々天災地變にて非常の死者あれば追弔會を營む事あるに過ぎず孤兒飢に泣き窮民寒に叫ぶも殆んど知らざるが如くにして學校を開て貧兒を世話する者もなく病院養育院貧院の如きものを起して功徳を施す者もなし耶蘇教は新來の客にして勢力猶ほ振はず僅に社會の一隅に寄食するものなるに反して佛教は殆んど滿天下を押領し至る所信徒ならざるはなし一たび手を擧て唱道せんには幾百萬の資金も立ろに集まるの勢なるに慈善事業に於て曾て觀る可きものなく却て微々たる耶蘇教徒に及ばざるは何ぞや多年の全盛に腐敗したるが爲めにして佛教者は到底永く維持す可らず德川の末路に當りて其弊甚だ盛にして排佛者流の不平の如きは蟷螂の斧に過ぎざりしに革命の火は何日しか[illegible]の下に起りて三百年の覇業は一朝にして灰燼と爲りぬ宗教と政治とは自から趣を異にすれども一方が太平の夢を貪て[illegible]ざる間に他は孜々として身を苦み膽を嘗ぬれば遂に勢力地位を異にせざるを得ず今回放免の囚徒の如きは佛教家の宜ろしく意を致す可き好問題にして此等に行届けば再び昇[illegible]の見込ありなれば到底官邊の手を以て始末す可き性質のものに非ず佛教徒にして若しも少しく奮發して一方に於て之を救護して再び罪を犯すの憂なからしむると共に他の一方に於ては之を感化して[illegible]に[illegible]人たらしめば[illegible]世間[illegible]大なる可し[illegible]の爲めにも宗教[illegible]向て[illegible]の[illegible]望する所なり

○放免者懺悔談（六）

殺人犯有期徒刑十五年

岩手縣平民　花咲陳平述

私は家内を殺した爲に三十歳で拾五年の刑を言付かりました、家内が不身持――不義の現場を慥に認めた譯ではありませぬが、實は斯う云ふ事情

私は生國は岩手縣下で稼業は印判職、さうして明治八年に仙臺へ遊びに出て參りました、私も十三四歳の頃は其方此方の印判屋に食客をしたりぶらつき者になつて居つたが私が仙臺へ來て養子に這入つて殺した女と云ふものは戸主のやうな譯で錢屋をやつて居つた實に申上げるも可愧い私が刑に就いてから仙臺で芝居になつて馬鹿な目に遇つたのです

仙臺に出て遊んで居りましてツイ錢屋の向側に懇意なものがあつたので其處に寢起きをして居りました其處の前へ錢屋のお母と私の殺した女とが始終遊びに來てドウかして私を此處に止めて貰つて呉れと云ふなんださうです、夫で私はマア東京さ出て來る積りでしたからそんな氣もなかつたが、何を云つても私は居候でぶらつき者だから内の者が「貴母樣方がさう云ふならば呉れませう」位に話をして了つた

夫から成程仕事をして歸つて來ましたら宿の嬶が「イヤ錢屋から斯う云ふ譯で再々來たが、あんなに願ふから呉れて了ふみとにしたからね」斯う云ふ一件ツレは私を可愛がつて居る樣なんです其處の家は――其嬶と云ふものは[illegible]、私が故郷の人なんです夫で私を貰つて居るものですから私に向つて「お前に都付いて貰へば妾も安心だ、ドウか錢屋さ行つて呉れ」と云ふやうな譯で、なかく錢屋の人達は奇麗な裝をして居るもんですから私も下宿して居るより宜からう位の調子で這入り込んだ

さうして居りやして十三年の七月其處に這入り夫から明治十五年の一月まで錢屋に居りました其中に自分の印材から諸道具や何かで二百五六十圓の物を持つて居たんですが夫を其女が私と嬶は同じ事でござんしたが業を怠懶から成上つて藝者をしたり娼妓になつたり且は寄席其他店頭の[illegible]になつてなかく有名な女、夫で私の友達が「お前は詰らん處に馬鹿な事をした、錢ら私をしても宜いから止めて了へ、彼の女の手に懸つて無事に往つたものはない、何人か彼の女の爲に身を損つて居るのを既に他等が知つて居るから――手代番頭も何人かやられたのを知つて居るから――止める方が宜からう」と再三諫ひました、然しツと情勧をしたから今更止す譯にも行かず「若し女房が口で殺せば此方は口は達も及ばぬ手で殺すから」位の話で養子に這入つて明治十四五年の頃になつたら道具も着るものも殘らず使はれて了つた漸う十四五圓だけの印材は殘つてあつたが夫れも使ひ果して了つた衣飾は宜うござんしたが這入つて見たらなかく容易ならん借金があるので詰り東京でいへば知識屋仙臺では車折屋と云ふ商賣の名目はかりで女ヤラン（小童）を二三人抱へてやつて居りますツと其商賣も思ふ通りに往かんで借金の爲に錢屋は追はれて私の衣類から何から無くして了つたんですツコで考へて見るせ此錢せ女の證で道具に私を使つたので剛々の調子のやうに又私を[illegible]はうとした夫で散々遣り合つたんです[illegible]して[illegible]はんな事に[illegible]ません國より私は奇麗に[illegible]移した[illegible]でもなし「出て往けならイツ何時でも出て往くが[illegible]れなくは出ない若し此錢屋一文でも此家の物を浪費に使つたとか博奕を打つたとか酒を飲んだとか何か一ト廉あつたら裸體でも出て往から、元は錢があつたから用があつた（花咲泣に擔へぬものと見え頻に泣き）今は錢がないからと云ふのでは……」と（いひかけて語を續る能はず）斯う云ふ論になつてせうしても追拂ふ譯に往かなくなつた、夫から今度は親類を寄せて吟味したみとが三還かあるが私は夫だけの事をおへて何とも謂はん唯だ「何でも私に落度が一つあれば宜うがす」といひ、又「若しさうでなければ俺ア東京さ出て行くから、百圓とか二百圓とか俺が入れた金だけを取つて往く、ドウしても東京さ往く小遣だけを貰つて行かなくちやアならぬ」と言ひ張りました、夫で容易に擺ッ殺出す譯に往かなくなつた

さうして居りやすと函館の客人で代言人が宮城上等裁判に訴の事件があつて仙臺さア來て居て其男が一寸々々遊びに來て居つたです其奴か大した事件に物扱いて假に歸國するみとになつた、けれども其時は客中で幸ひ仙臺の旅籠から錢が出ない旅宿から東京さ出て來て横濱から函館に歸らなければならぬ夫で横濱まで是非往かなければならぬと云ふみとになつた、夫で此袋が娘を其人に托して「ドウか貴下が横濱まで娘を連れて往つて下さい」と托した、さうして娘に向ひお前が家を出て横濱に行けば花咲は此家に居る譯には行かないから出て往く、出て往つたら其時はお前に報知するから歸つて來い、若し其時花咲が此家を出なければ函館まで往つて藝者をして居れ」と斯う云ふみとに談判の極つたみとも薄々分つて居る正かソンな事はすまいと思つた處が當圖らん出て行く支度をして居る其奴――客人を――橫濱まで送つて行くと云ふお錢は「フーム送つて行くも宜いがお前一人では仕方がないから酌女一人附けてやるから[illegible]々を連れて往け」「花に中と云ふ女が居ります「花か中か[illegible]方か[illegible]一人に[illegible]いて往け」さうして小供が行く用意をして居つた處が俄に行かないと云ふ夫なら止め

なつて居りました、

客人か三人ばかり從

本飲んで行かうと云

と云ふからは最う出

俺が用事があつて出

追驅けて往つた樣子

つた浮かり離してや

見納めであるから追

が恐くて足駄で追驅

の心中も顚倒したと

夫から何かと思つた

を通つた處が幸ひ此

りました是は幾らだ

い刀な。ですが目釘

う〳〵と思つて拔い

なつたものと見へる

と云つたら「何もな

ら七寸五分の短刀を

い「是は幾らか」と云

お錢は一圓はかないか

ウもお貸し上げる譯は

刃物を置いて往く

短刀を懐にして追驅

ら私も車を頼んで「車

ふ、車夫は宜うござん

く斯うした客人が往

したといふ」「彼れを

すから、彼れに追付け

「宜うがすと」夫で乘

惡い處を一人鬼で跳ね

んから棚と付けて下さ

を」と云ふと好し來た

餘行くと向ふに車屋

だく〳〵綺け「[illegible]

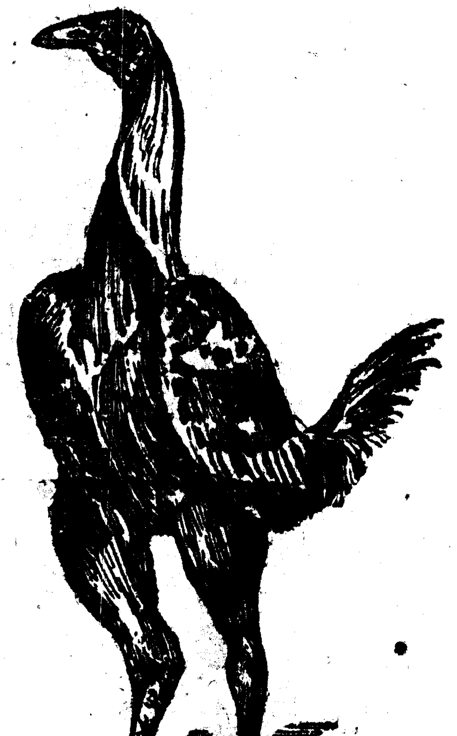
夫から[illegible]

尼坂[illegible]云ふ[illegible]がある、

○價二千圓の闘雞

英國バーミング市の家禽共進會に於て一等賞を得たる闘雞一羽を凡そ我が二

聞くや意外に高價なるを怪み誰とて之を信ぜざりしが紛れもなき事實にし



るみも判然せるよし此闘雞は曾て比類を見ざるほど發育完全にして殊に尾の

賞を得たる値打ありと云へども其價二千圓とは高價驚く可し